

まちのわだい

まちのイベントや地域の話をお届けします

真冬の味く、色とりどりの おもちの花

生野まちづくり工房井筒屋運営委員会は12月23日、伝統的な正月の飾り物「もち花」を作るイベントを開催し、市内外から親子連れなど約百人が参加しました。

同委員会が昔からの風習を次世代に伝えようと開催するこの催しは今年で5回目。参加者は、うすときねでついた紅白のもちを小さく丸めてクロモジの木の枝に一つひとつ丁寧に飾り付けると、井筒屋は色鮮やかなもちの花でいっぱいになりました。



全体のバランスを見ながら一つひとつ丁寧にもちを飾り付ける参加者

プロ並みの「のど」を披露



生バンドの演奏をバックに熱唱。(審査結果は18ページに掲載)

ジュピターホール振興協会は1月20日、第16回ジュピターホール歌謡祭を開催しました。

この歌謡祭はだれもが気軽に参加できる催しとして毎年開かれているもので、昨年12月の予選には、市内はもとより県内外から百30人が参加。このうち、決勝大会には予選会を勝ち抜いた30人が出場し、いずれ劣らず熱のこもった歌声を前に披露していました。

また、出場者が歌い終わるごとに、6人の審査員の皆さんが採点を実施。歌唱力アップの秘訣などをアドバイスしていました。

寒風切って健脚競

新春・元旦マラソンが1月1日、市内3か所で開催され、子どもからお年寄りまで多くのランナーが走り初めを楽しみました。和田山公民館は、第36回和田山新春マラソン大会を市役所本庁舎前を発着点に開催。百42人が新春のまち並みを駆け抜けました。

山東公民館は、公民館前をスタートする3キロのコースで健脚を競う元旦マラソンを開催。百63人が参加し、さわやかな汗を流しました。



寒さに負けず力走！（和田山新春マラソン大会。結果は12ページに掲載。）

朝来公民館が開催した元旦マラソンには、朝来庁舎前をスタートする約3キロのコースに百30人が参加。沿道の市民から声援を受け、力走していました。

「もしも」に備えて避難訓練



頭を守りながら、素早く静かに避難

1月16日と17日の両日、市内の各幼稚園や小・中学校で避難訓練などが行われました。

生野小学校では、全校児童2百5人が「10時10分に地震が発生。その後、給湯室から火災が発生した」という設定で訓練を行いました。児童は先生の指導の下、急いで体育館に避難しました。

また、16日には阪神淡路大震災を経験した市消防本部職員の災害時の心構えなどの話を聞き、いつ起こるか分からない災害に対する防災意識を高め、いろいろなことを学んだ2日間となりました。